

P!P!P!!!

CM&EO 事業部 田村 一雄

PP (ポリプロピレン)、PS (ポリスチレン)、PC (ポリカーボネイト) らは、我々CM&EO 事業部にとってなじみの深い用語で、実際、これらの樹脂および加工製品に関するマーケットレポートも多数作成してきた。しかし、私にとってこれらは別の意味を有する用語にもなる。PP (フィリピン・パブ)、PS (フィリピン・スナック)、PC (フィリピン・クラブ) …。

この「plus α」というコラムが始まって前 2 回はソウル支社と台北事務所の紹介をさせていただき、私のことを国際派のように思われた方がいたとしたら、それは間違いである。これまで韓国、台湾のほか、中国、ドイツに出張したが、仕事の必要に迫られて出かけていったのであって、プライベートで海外に行ってみたいとはほとんど思わない。例外的に思うのがフィリピンだ。

フィリピンには行ったことがない。行ったことはないが、日本のあらゆる都市でフィリピン人には接することができる。そうです。上記 PP、PS、PC に行けばよいのです。PP、PS、PC それぞれに定義はあるのだろうが、それについて私は知らないし、いちいち使い分けるのも何なので、以下フィリピン人のおねいさん (以下ピナという。フィリピーナから転じた用語。通はピナとかピーナとか言います。差別用語ではありません) がお酒のお相手をしてくれる店を P 店とすることとする (パチンコ店ではありません)。

私が P 店に通うようになったのはひよんなきっかけであった。私は週末、家で食事 (飲酒含む) をした後外出したくなるのだが、日曜日は次の日のためにガマンすることになっている。ところがその日は、たぶん家内と口論にでもなったのだろう。日曜日にも関わらず外に出た。しかし、いつもいく店はお休みで、何件か探した後飛び込みで入ったのが P 店なのであった。実は、P 店に入ったのはそれが始めてではない。これ以前に 2 回程度は行ったことがある。その時には何の感動も生まれなかったのだが。

ところがその日は何かが違った。特におねいさんが綺麗とかサービスがいいというのではない。よく覚えていないが、たぶんピナのホスピタリティにグツときたような気がする。私はおねいさんのホスピタリティを渴望していたのだろう。2001年夏頃の話である。これ以降、週末などに地元で飲むときは90%程度P店である。ピナが店を移ればその店にも通うなどして、私のテリトリーは広がっていった。といっても東武東上線某駅を中心に前後ふた駅程度だが。

P店には大きく分けるとタレントの店とそうでない店がある。前者は店にはステージがあり、(建前上)現地で訓練を積みオーディションを通ったダンサーやシンガーをプロモーターが呼んでいる店で、ピナはタレント扱いだから本当はお客の隣に座って接客してはいけないらしい。ピナは数ヶ月働いた後帰国する。成田空港で大きなぬいぐるみとすごい量の荷物(中身はお土産として主に※1シーフードヌードルとチョコレートを親戚人数分。現地に子供がいるピナはNINTENDOやSONYのゲーム機などをお土産にすることもある)を持ったピナを見かけた人は少なくないと思う。そして数ヶ月後にまた日本にやって来るが、その場合前回と同じ店とは限らない(店側の強い要望があれば再度同じ店に来ることもある)。ピナはそれを何度か繰り返す。すると、そのローテーションの中でピナを口説くヤカラが現れる。一方、日本でのセレブな生活を夢見るピナは、お店で羽振りのよい日本人男と結婚したいと思うようになる。そして結婚する。しかし、ほとんどの場合、男が羽振りがよいのはお店だけのことなので、夢見ていたセレブな生活などあるはずがなく、一方で子供ができたりして、子供はかわいいのだが、ダンナはギャンブルばかりやっていてあまり働かない、フィリピンの実家にもお金を送ってくれないなど不満がたまり※2離婚するのである。離婚はしたが、子供がいるので永住権はあるし、日本の食べ物はおいしいし、フィリピンに帰っても仕事はないので日本に住み続けることになる。昼間はお弁当屋さん、ファーストフード店、精密部品工場の組み立て・検品、激安洋品店のタグ付け、ビジネスホテルのベッドメイキングなどで働いて夜はお店で働く。長くなったが、そうした店が非タレント店なのである。

私は非タレント店の方が好きだ。年齢的には30歳をとうに超えているが、しゃべる日本語もこなれているし、いろいろな意味で安定感がある(笑)。

ピナとのお付き合いで必ず問題になるのが「ハマってしまった人々」だ。この件に関しては浜なつ子「マニラ行き片道切符」(徳間文庫)に詳しい。名著である。こういう人は私の周辺にも数名いる。「片道切符」にはならないまでも、かなりいい年のオッサンがストーカーになったりといったトラブルも多い。

私はフィリピンに行きたい。ピナにダンナや特別のカレシがない場合(ホントかどうかかわからない)、フィリピン行くから実家に泊めてというと、ほとんど歓迎の態度を示してくれる(本気なのかどうかかわからない)。

私はフィリピン関連のTV番組があるとかかさず録画しているし、例えば船戸与一「虹の谷の五月」(集英社文庫)で出てくるまあい虹に思いを馳せ、春江一也「カリナン」(集英社文庫)に涙する。P店で修行を積んだ私のカラオケの実力は現地でどれくらい通用するのか己のポジションを確認したい。嗚呼、フィリピン行きたい。フィリピン! フィリピン! フィリピン!!!

[筆者注※1]フィリピン人はしょう油味よりシーフードを好む。理由を尋ねると、「ショユ味はショユの味しかしないデショ」、シーフードは「グがたくさん入っていてオイシデショ」と、ほとんど全員から同じ答えが返ってくる。しょう油よりシーフードの方を好む理由が論理的でないところがピナらしいところだ。また、フィリピン人には日本製のチョコレートが人気である。理由はよくわからないが、現地で売られているものよりも味が繊細なためかと思われる。

[※2]もちろん離婚せずにP店で働いているピナもたくさんいる。しかし多くの場合、夫婦仲は前述のような理由で冷え切っており、客とデキてしまうことによるトラブルも絶えない。

執筆者略歴：田村一雄

1989年、(株)矢野経済研究所に入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事し、現在はデバイス領域まで調査領域を拡げ、CM&EO事業部の事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有するほか、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。